

## 15. 開発途上国の対外直接投資と対日直接投資

### - 途上国企業の多国籍化と海外直接投資 -

#### 1. 調査の目的

近年、途上国の企業が力をつけ途上国からの外国直接投資は拡大傾向にある。そこで、途上国の外国直接投資の動向について直接投資統計をもとにまとめるとともに、事例研究として途上国企業の対外直接投資の動向を分析することにある。

#### 2. 調査結果の概要

開発途上国の対外直接投資は 1990 年代後半から増加傾向が顕著となり 2000 年に 1000 億ドルを超え、2004 年以降 2 年連続して 1000 億ドル台にある。その結果、1990 年当時は 5.5% だった世界全体の対外直接投資総額に占める割合は 2005 年には約 15% を占めている。

##### 1. 重要性を増す開発途上国の対外投資

直接投資統計等をもとに、1990 年代後半から拡大のペースが高まっている開発途上国からの対外直接投資を分析している。

特に、対外直接投資残高が大きい香港、韓国、台湾、シンガポール、中国、マレーシアなどの東アジアからの対外直接投資が拡大していることに焦点をあてている。

香港が最大の投資国であること、東アジアにおける対外直接投資には雁行型の発展が見られること、中国の対外投資の伸びが大きく 2005 年には初めて 100 億ドルを超えたこと、業種では非製造業種の割合が大きいこと、クロスボーダー M&A が増加していることなどが特徴である。

##### 2. 途上国からの対日投資動向を取り上げている。直接投資統計からみると、開発途上国・地域からの対日投資は少なく、2005 年末時点における投資残高が 1000 億円を超えるのは、ケイマン諸島、香港、シンガポール、台湾などである。業種も非製造業分野の投資額が圧倒的に大きい。企業数でも同様である。

事例として近年日本への進出が目立つ中国系企業、インド系医薬品企業をとりあげている。

中国系企業の対日進出は、

技術力のある製造業に関心をもち、M&A、資本参加などによる進出が目立つ

ソフトウェア、小売業などの分野で日本市場に参入を図ろうとしていること

日本での事業化への取り組みが有利である分野での参入や留学経験者による創業が目立つ

ことがあげられる。

そうした事例から、中国系企業の進出は引き続き増加・拡大するとしている。

インド系医薬品企業の対日進出は、

最近1～2年に集中し、ジェネリック医薬品市場の拡大を見越していること、TRIPS協定の途上国に対する猶予期間が終了し、インド医薬品メーカーは、先進国のジェネリック医薬品メーカーと同様に新たなジェネリック医薬品の開発と世界市場での販売拡大が急務である。そのために、クロスボーダーM&Aなどによる海外直接投資が増えている。日本への進出もその一環であること等が指摘できる。

インド系医薬品メーカーの日本進出の課題として、ジェネリック医薬品が普及するために不可欠の「医薬品」としての信頼を勝ち取るための情報提供をどう実現していくのかにあるとしている。

3. さらに、途上国および途上国企業による対外投資動向の分析に役立つ統計を整備し掲載している。